

# アワフキムシ

初夏は、みずみずしい緑が目に鮮やかな季節で、良い天気の日が続くことが多く、野外の散策、自然観察に良い季節です。富山市街のすぐそばの丘陵、呉羽山には気軽に散策できる遊歩道が雑木林の中に続いています。



アワフキムシの泡

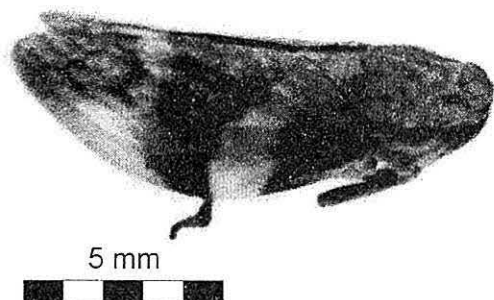
林のへりの、キイチゴの枝やヨモギの茎には、小さな白い泡の塊がよく付いています。この泡は何なのでしょう。

昔の人は、この泡を小鳥のつばだとか、ホタルの幼虫が中にいるのだとか言い伝えてきました。今でも、この泡の中にいるのがホタルの幼虫だと思っている方がおられます。

実は、この泡は「アワフキムシ」(漢字で書くと「泡吹き虫」というセミに似た小さな昆虫の幼虫が作ったものなのです。同じ昆虫ですがホタルの幼虫ではありません。アワフキムシの仲間にはいろいろな種類がいるのですが、雑木林の灌木や草の枝や茎に最も普通に見られるのは、「シロオビアワフキ」という種類です。

そっと息を吹きかけて、泡をどけてみましょう。泡の中から黒い体に腹が赤い虫が現れません。アワフキムシの幼虫は、セミと同じく、植物の茎から汁を吸い、その中に含まれる栄養分

を吸収し余分な水分をおしりから出しますが、その液に腹部を伸縮させながら空気を混ぜて泡を作ります。アワフキムシの幼虫は、この泡の中で乾燥と天敵から身を守りながら、成長し、7月ごろには成虫になります。成虫になるともう泡は作りません。体も硬くなり、ハネで飛ぶことのできる成虫は、泡の中に隠れる必要がないのでしょうかね。



シロオビアワフキ

(2010年4月 根来 尚)